

開拓社叢書 23 『英語の仮定法』 正誤表 (2017年2月9日現在)

箇所	誤	正
p. 6, (8) c.	<i>Martin Atkinson,</i>	Martin Atkinson,
p. 12, l. 16	写る	映る
p. 26, fn. 11, l. 4	omparative	<u>comparative</u>
p. 89, 下から l. 1	parasitic	phrastic
p. 106, 本文下から l. 2	(33a, b)	(35a, b)
p. 109, 下から l. 7	de que	de qui
p. 112, ll. 3-4	形だけの仮定法が機械的に用いられる場合が、 <u>中英語期の宗教詩 Ormulum</u> 中に見られるということを Traugott は指摘している。 <sup>11</sup>	形だけの仮定法が機械的に用いられる場合が、 <u>(5世紀スペインの神学者・歴史学者 Paulus Orosius がラテン語で書いた歴史書を9世紀に翻訳した) 古英語</u> 中に見られるということを Traugott は指摘している。 <sup>11</sup>
p. 112, fn. 11, l. 5[2箇所]と l. 12 ; p. 113, l. 10	Or I	Or 1
p. 112, fn. 11, l. 10	Druson	Drusno
p. 149, l. 11	1.1	2.1
p. 206, fn. 47, l. 1	第 7 節	第 6 節
p. 215, fn. 8, 下から l. 6	Gower	Gowers
p. 225, fn. 14, 下から l. 2	note 15), 鷹家・林 (2004: 66-69)	note 15), <u>Givón (1993: 275-276),</u> 鷹家・林 (2004: 66-69)
p. 251, fn. 28, l. 4	(cf. Chiba (1987: 146-149))	(cf. <u>pp. 36-38;</u> Chiba (1987: 146-149))
p. 289, l. 10	Language Game	Language-Game
p. 305, 左段 l. 17	Ormulum 112	Orosius 112